



記者会見する沖縄県の玉城デニー知事=25日午後、県庁で

辺野古設計変更 不承認決定

11/26 早稿

「無意味な工事」

沖縄県の玉城千一一知事は二十五日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画を巡り、埋め立て予定海域で見つかった軟弱地盤に対応するため、防衛省沖縄防衛局が申請した設計変更を不承認とした。玉城氏は記者会見で「完成の見通しが立たず、事実上、無意味な工事を」れ以上継続する「」とは許されない」と強調。政府は速やかに対抗措置を取ることない限り、法廷闘争に発展する可能性が高い、対立激化は避け難い。

玉城氏が支援する移設反対の候補が自民党候補に敗北。玉城氏は来年一月の名護市長選や同年九月の任期満了に伴う知事選を見据え足元を固める狙いがある。

玉城氏は不承認の理由として、防衛局が軟弱地盤の最深部を調査しておらず、地盤の安定性を十分検討していないと指摘。絶滅危惧

基づく審査請求などを検討する。ただ不承認処分が取り消されても、知事が承認する見通しはない。裁判といつた別の法的手段も怠頭に、設計変更の対象区域外で工事を進め、移設の既成事実化を急ぐとみられる。

松野博一(宮房長官は)「十五日の記者会見で『辺野古移設が唯一の解決策だ』と強調した。

に關しても調査が不十分とした。

軟弱地盤を巡っては防衛局が昨年四月、改良工事のため、県に設計変更を申請。答覆が認められれば、

沖縄の声聞かぬ国に对抗

水面埋立法に基づき、知事から設計変更の承認を得る必要がある。玉城氏は不承認だ。十一月末の衆院選では、辺野古を抱える沖縄3区で、

に關しても調査が不十分とした。

軟弱地盤を巡っては防衛局が昨年四月、改良工事のため、県に設計変更を申請。答覆が認められれば、

沖縄県の玉城ケリ一知事 省は近く対抗措置を講じる

が二十五日、政府が米軍普天間飛行場の移設先とする見過しで、法廷闘争は避けられない。

乃歴古移設に關し、縣政の爲めに、
之を以て之の民衆の利害に關する事

対策の設計変更を不承認としました。玉城氏は「〇一八

したことで、政府と県の対立が再び先鋭化した。防衛訴えて過去最多票を獲得し

て初當選。海上埋め立ての
資本を問う「元手」用の渠

の玉城と、県庁を問うた。九月二月の興味で、民投票では、反対が七割を

中継講演の後半で、超えた。だが、政権側は辺野古

見する
四二五
移設が唯一の解決策」と工
第三銀行。政府萬雷は「こ

者会見の如きは、一矢報復の意を強ひ、政治的問題にまで昇るの意見ばかりで、實に

法廷闘争 避けられず

埋まらなかつた。(計画を)前に進めないといけない」と、対話に否定的だ。埋め立て工事は難航して計画より大幅に遅れ、政権側が唱える危険性除去は長く纏き去りにされてくる。日米合意に基づく普天間返還の時期は、一九九六年に「五一七年以内」とされたものの遅々として進まず、二〇一一年に「二二年度またはその後」と先送り。着工後に軟弱地盤が判明し、今は「三〇年代」にずれ込んでいる。その間も米軍の事故は後を絶たず、今月には普天間所屬の輸送機MV-22オスプレイから金属製水筒が市街地に落下していたことが明らかになつた。過重な基地負担を強いられる県民の我慢は限界に達している。

玉城氏は設計変更の不承認を発表した記者会見で、「政府が十分な説明を行わないまま一方的、強権的に工事を強行する姿に不安、憤り、悲しみを感じる県民、國民も数多くいる。声の一つ一つに耳を傾け、思いに全身全霊で応える」と訴えた。(山口哲人)

[View Details](#) | [Edit](#) | [Delete](#)